

1. 単元名 「身近な環境を考えよう」～紀の川のつながりを通して～

2. 単元の目標

- ・身近な環境問題と紀の川を通したつながりについて理解する。 (知識・技能)
- ・身近な環境問題と紀の川を通したつながりについて考える。 (思考・判断・表現)
- ・身近な環境問題と紀の川を通したつながりをもとに、自分にできることを考え、実行していこうとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本学年の総合的な学習の時間では、1学期(4～10月)は「環境」、2学期(11～3月)は「人権・福祉」を大きなテーマに学習を進める。そして、社会科「ごみの処理について」「くらしをささえる水」「自然災害から人々を守る活動」との関連を活用して実施する。

「ごみの処理について」「くらしをささえる水」では、普段自分たちが当たり前前に捨てているごみや、当たり前に使っている水の処理の仕組みを理解し、自分にできることを考える。「自然災害から人々を守る活動」では、地域の関係機関や人々が、自然災害に対して様々な対策をしてきたことを理解し、自分にできることを考える。

本単元では、「紀の川のつながり」を軸に据え、学習を進める。「紀の川のつながり」を軸にすることで、水を通した紀の川のつながり、森林と紀の川のつながり、自然災害と紀の川のつながり、上流・中流・下流のめぐみと紀の川のつながり、環境問題と紀の川のつながり、自分と紀の川のつながりなど、自然環境や施設、人々の思いや願いが密接に関係していることが理解でき、様々な課題を自分事としてとらえやすくなるを考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、様々な学習活動に意欲的に取り組もうとする。しかし、物事をじっくりと考え、自分にできることを実践していこうとする意識は低い。

社会科「ごみの処理について」では、エコライフ紀北を見学し、身近なごみがどのように処理されるのかを学んだ。その後、総合的な学習の時間で地域のごみ拾いをし、地域の道や公園に思った以上にごみがあったことから、全校児童に地域をきれいにすることを呼びかける新聞を作った。

社会科「くらしをささえる水」では、自分たちが普段飲んでいる水は、どこから来てどのようにきれいになるのか、そしてどこへ行くのかを学習した。当たり前前に捨てているごみも、当たり前に使っている水も、その処理のために人が関わっていることを学んだ。

夏休み後は、社会科「自然災害から人々を守る活動」の学習の中で、環境と密接に結びついている自然災害についても学んだ。身近に起こった風水害を調べ、森林の働き、大滝ダム、川のつながりを学ぶ中で、「早く川上村に行って学習したい」という意欲が高まっていった。

学習を進めていく中で、自分たちの生活の裏には多くの人の努力や思い、願いがあることに気づき、自分にできることを考えようとしている児童が増えてきている。

(3) 指導観

「ごみの処理について」では、「ごみがどこでどのように処理されているのだろう」という児童の問いから、「エコライフ紀北へ見学に行きたい」という意欲につながられた。エコライフ紀北では、働く人に思いや願いを話してもらった。その中の「自分たちの町は自分たちできれいにしたい」という言葉が子どもの心に響いたようで、「自分たちにもできることがあるはずだ」との思いから行動させることができた。

「くらしをささえる水」では、水道水と川上村の源流の水を飲み比べた。そこで出た「なぜ川上村の水はおいしいのか」「なぜ川の水も飲めるようになるのか」という問いをもとに学習を進めた。そして、森林の働きや川上宣言、浄水場の仕組みを学んだ。

「自然災害から人々を守る活動」では、自然環境と密接に結びついている自然災害を考えさせた。川上村の人々が森林を守っていることや、何十年の歳月をかけて大滝ダムを造ってくれたことから、地域の関係機関だけではなく、川上村の人々が自分たちの命を守ってくれていることに気づかせ、遠足で行く川上村への意欲を高めることができた。

「紀の川のつながり」の中で、上流の役割、下流の役割は子どもたちにとって考えやすいが、中流の役割は考えにくいと思われる。子どもたちからは、「上流からきれいな水を流してくれているのに、下流にきれいな水を流しているとは言えない」という意見が多数あった。だからこそ、水を含む環境を守るために自分たちにできることを考えさせたい。上流の川上村は約95%が森林で田がなく、中流で作られた米を食べていることや、中流の田や池が森のダムのように下流の洪水を防いだり、多様な生き物の住処にもなったりしていることに気づかせ、中流のめぐみを理解させたい。そして、上流・中流・下流がそれぞれにつながって生活していることと、自分もその「紀の川のつながり」の一員であることを自覚させ、行動できるようにしたい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・相互性…上流・中流・下流のそれぞれのつながりや、様々な施設、地域の関係機関とのつながりが自分たちの生活を支えていること。
- ・有限性…自然環境や水のめぐみなどは当たり前にあるものではなく、人の生活によって変化してしまうものであること。
- ・責任性…自分も紀の川のつながりの中に生きる一員であり、自然環境を守るためには自分の行動が大切であること。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・クリティカルシンキング（批判的に考える力）

自分たちの生活に対して、このままでいいのか、という視点で課題を見つけ、考える。

- ・システムズシンキング（総合的・多角的に考える力）

上流・中流・下流それぞれの立場に立って考えることが必要であることを学ぶ。

- ・つながりを尊重する態度

上流・中流・下流のそれぞれのつながりや、様々な施設、地域の関係機関とのつながりが自分たちの生活を支えていることに気づき、大切にしようとする。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正

自分たちの世代だけでなく、紀の川のめぐみ、自然環境を未来へつないでいこうと考え、行動する。

- ・自然環境、生態系の保全を重視する

自分たちの生活が自然環境に与える影響を理解するとともに、自然環境を守ることが自分たちの生活

を守ることにもつながっていることを理解し、考え、行動する。

○達成が期待できるSDGs

- ・ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ・ 11 住み続けられるまちづくりを
- ・ 12 つくる責任 つかう責任
- ・ 14 海の豊かさを守ろう
- ・ 15 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう協力して進められていることや、地域の人々の健康な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、見学・調査したり、地図や各種資料で調べたりして、まとめる技能を身につけている。	①ごみの処理のしくみや再利用、県内外のごみの処理に携わる人々の苦労や工夫・協力に着目して、ごみの処理事業の様子をとらえ、その事業が果たす役割について、調べたことや考えたことを表現している。	①ごみの処理事業について、学習問題の解決に向けて主体的に問いを作り、それらについて追究しようとしている。 ②これまでの生活や学習を振り返り、地域社会の一員としての意識を持ち、ごみの適切な処理や再利用に協力しようとしたり、自分たちのよりよい生活を考えたりしようとしている。
②飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、見学・調査したり、地図や各種資料で調べたりして、まとめる技能を身につけている。	②飲料水の供給のしくみや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水の供給のための事業の様子をとらえ、その事業が果たす役割について、調べたことや考えたことを表現している。	③飲料水の供給事業について、学習問題の解決に向けて主体的に問いを作り、それらについて追究しようとしている。 ④これまでの生活や学習を振り返り、水を資源としてとらえ、節水等に向けて地域の一員として自分たちができることを考えたり、自分たちのよりよい生活を考えたりしようとしている。
③地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な対策をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、聞き取り調査をしたり、地図や年表などの資料を調べたりしてまとめる技能を身につけている。	③過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動をとらえ、その働きを考え、表現している。	⑤自然災害について、学習問題の解決に向けて主体的に問いを作り、それらについて追究しようとしている。 ⑥自然災害から人々を守る活動に関心を持ち、見通しをもって主体的に学習問題を解決しようとするとともに、今後想定される自然災害の対処や備えのよりよい在り方について考えようとしている。
④身近な環境問題や紀の川のつながりに関わる探究的な学習の過	④身近な環境問題や紀の川のつながりの中から問いを見	⑦身近な環境問題や紀の川のつながりについての探究的な学習に主体

程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけているとともに、身近な環境問題や紀の川のつながりが人々の努力や願いによって支えられていることを理解している。	出し、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身につけている。	的・協働的に取り組もうとするとともに、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとしている。
--	---	---

5. 単元の指導計画（社会科 2 6 時間、総合的な学習の時間 2 8 時間、道徳 1 時間 全 5 5 時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価
1 1 時 間	【総】 どのような環境問題があるかを話し合う。 ・ 自然破壊 ・ 地球温暖化 ・ ポイ捨て ・ マイクロプラスチック	・ 環境問題について知っていることを発言させ、初めにどの問題について学習を進めていくのかを考えさせる。 ・ 社会科と関連し、調べやすいごみの学習を調べたいという意欲を持たせる。	ウ⑦
2 11 時 間	【社】 ごみのゆくえを調べる。 ・ 捨てたごみはどこへ行くのだろう。 ・ 燃えないごみはどうなるのだろう。 ・ 橋本市彦谷の埋め立て場や大阪湾のフェニックスがいっぱいになったらどうなるのだろう。 【社】 エコライフ紀北を見学する。 ・ ごみはこのように燃やされているのか。 ・ 種類ごとに分けられてリサイクルされているのだな。 【社】 自分にできることを考える。 ・ エコライフ紀北の人が言っていたように、自分たちの町は自分たちできれいにしたいな。 ・ いらない物は買わないようにしたいし、まだ使えるものは大切に使いたい。 ・ 給食の嫌いなものでもあと一口食べよう。	・ 理科の観察中に割ってしまった温度計はこの後どうなるのかを考えさせる。 ・ 橋本市のごみの量とごみの行方を調べさせる。 ・ エコライフ紀北の工夫、働く人の思いや願いに気づけるように、事前に打ち合わせをし、見学では子どもに声掛けをする。 ・ 自分の生活を振り返るとともに、地域にも目を向けさせ、総合の学習につなげていく。	ウ① ア① イ① ウ②
3 8 時 間	【総】 地域のごみ拾いをする。 ・ こんなにごみがあるなんて。 ・ 誰が捨てたんだろう。 ・ 放課後に店に集まってごみ拾いをしよう。 ・ 学校の人にもこのことを伝えたい。 【総】 ごみ新聞を作って全校児童に伝える。 ・ わたしたちは 5、6 年生に向けて伝えるよ。 ・ ぼくたちは、1 年生でも分かるようにまとめるよ。	・ ごみ拾いをして考えたことを発表させる。 ・ ごみを拾うことの大変さと、自分たちの町をきれいにするには、ごみを捨てる人をなくさなければならないことに気づかせ、どのように行動するのかを考えさせる。	ウ⑦ イ④
	【社】 水がどこから来ているのかを知る。 ・ 水は大台ヶ原から流れてきているんだ。 ・ 1 人 1 日に 3 0 0 L も使っているなんて驚いた。	・ 大台ヶ原から海へ川が流れていること、紀の川が流れている市町村、大迫ダムと大滝ダムがあること、奈良県では吉野川	ア②

4 9 時 間	【社】水道水と川上村の源流の水を飲み比べる。 ・なぜ川上村の水はこんなにおいしいのだろう。 ・もともとはこんなにおいしいのに、なぜ川の水は汚れているのだろう。 ・川の水なのに、なぜ飲めるようになるのだろう。 【総】森林の働きを知る。 ・森があるから水がきれいになるんだ。 ・川上村の人が森を守ってくれているから水はおいしいんだ。 【道】「蛍川」（自作教材） ・下流の人のためにダムを造るべきだ。 ・家や思い出をしずめたくないからダムには反対だ。 【社】橋本市浄水場、伊都浄化センターの施設について知る。 ・365日毎日管理してくれているからいつも水が使えるんだ。 ・伊都浄化センターの人が頑張ってくれているから、ぼくも水を汚さないようにしたい。 【社】自分にできることを考える。 ・シャワーの水を出しっぱなしにしないようにする。 ・牛乳やみそ汁を流さないようにする。 ・溝に葉を落とさないようにする。	ということ、上流・中流・下流の名称などを確認する。 ・「おいしい水」に対する問いをたくさん出させる。 ・川上村への興味を持たせる。 ・森林がろ過により水をきれいにしていることを主に学ばせる。 ・川上村の間伐材の割り箸を配り、森林を守る大切さに気づかせる。 ・ダムを造ることに賛成か反対かを考えることを通して、環境問題や上流の人の葛藤、ダムには犠牲が伴うことに気づかせる。 ・水をきれいにする仕組みと、24時間365日水をきれいにし続けていることに気づかせる。 ・水を大切に使うためにできることと、水を汚さないためにできることを考えさせる。	ウ③ ア④ ア② イ② ウ④
5 8 時 間	【社】自然災害について知る。 ・和歌山県は南海トラフ地震が来るから安全ではない。 【社】南海トラフ地震を調べる。 ・この辺りは土砂崩れが起こりそうだ。 ・対策をしないといけないけれど、どうすればいいのかな。 【社】浜口梧陵について知る。 ・「村の人を守りたい」という気持ちが強かったんだ。 ・和歌山県には他にも堤防はあるのかな。 【社】和歌山県・橋本市の災害対策を調べる。 ・和歌山県も橋本市も地震の対策をしているんだ。 ・地震の対策があるかないかで1人でも助かるかもしれない。 【社】「きいちゃんの災害避難ゲーム」をする。	・知っている自然災害を発表させた後、「和歌山県は安全か」を考えさせ、「安全ではない」という共通認識を持たせる。 ・過去の南海トラフ地震を調べさせ、8月の「南海トラフ地震臨時情報」も思い出させ、近い将来必ず起こることを理解させる。 ・浜口梧陵の功績を理解させる一方、「これで安全ではない」という意識も持たせる。 ・1回目は避難できないが、2回目は楽に	ウ⑤ ア③ ア③ イ③

	・災害を知る→考える→行動する、が大事だ。 ・家に帰って防災バッグを確認しよう。 【社】学校の防災倉庫を調べる。 ・食料が入ってない。 ・たくさんの人が来たら水も全然足りない。 ・土砂崩れで学校まで行けないかもしれない。 【社】自分にできることを考える。 ・家で防災バッグの中身をもう一度話し合おう。 ・弟のためにおむつや着替えも用意しなければ。 ・避難訓練を真剣にしたい。	避難できる。なぜ2回目は避難できたのかを話し合わせる中で、災害への備えの大切さに気づかせる。 ・中にあるものを予想させてから実際に調べる。「これで安心か」を問うことで、自分の備えの大切さを実感させる。 ・自分の命、家族の命を守るためにできることを考えさせる。	ウ⑥ ウ⑤ イ③ ウ⑥
6 7 時 間	【総】環境とつながっている災害を考える。 ・台風・大雨・洪水・土砂災害 【総】身近に起こった風水害を調べる。 ・去年の大雨はすごかった。 ・伊勢湾台風で大きな被害が出たんだ。 【総】大滝ダムについて調べる。 ・伊勢湾台風がきっかけで造ることになったんだ。 ・完成するまでに50年もかかったなんて。きっと反対する人も多かったんだろうな。 【総】森林の働きを知る。 ・森は洪水も防いでくれているんだ。 【総】紀の川を通したつながりをまとめる。 ・森林があるから水がきれいになって、洪水も防いでくれている。 ・海でとれた魚を上流・中流の人が食べている。漁師さんは木を植えている。 ・中流は何をしているの。 【総】『ありがとう』は誰の言葉だろう?について考える。 ・きれいな水を流してくれてありがとう。 ・森のダム・大滝ダムで洪水を防いでくれてありがとう。 ・海があるから水が蒸発して雲ができて、雨を降らせてくれてありがとう。 ・おいしいお米や果物を作ってくれてありがとう。	・梅雨前線及び台風第2号による大雨、紀伊半島大水害、伊勢湾台風を調べる。 ・大滝ダムの歴史と役割について調べる。 ・森林が洪水を防いでいることについて主に学ばせる。 ・紀の川の上流・中流・下流のつながりについて考えさせる。 ・上流と下流の役割は出やすいが中流の役割は出にくい。上流は林業、中流は農業、下流は水産業という役割があり、互いにその恵みで支え合っていることや、中流の田や池が下流の洪水を防ぎ、生き物の住処になっていることにも気づかせる。	ウ⑦ ア④ イ④ ア④ ア④ イ④
7 4 時 間	【総】川上村への遠足 ・森と水の源流館 ・音無川・蜻蛉の滝 ・大滝ダム・学べる防災ステーション	・森と水の源流館では、川を通した上流・中流・下流の恵みのつながりを確認してもらい、自分にできることを考えてほしいという課題を出してもらう。 ・音無川・蜻蛉の滝では、きれいな水を身	ア④

		近に触れ、この水が紀の川につながり、自分たちが使っていることを感じさせる。 ・大滝ダム・学べる防災ステーションでは、豪雨体験をして自然災害の恐ろしさを体感するとともに、大滝ダムの役割と犠牲を改めて理解し、考えたことをダム新聞にまとめてほしいという課題を出してもらう。	
8 5 時 間	【総】ダム新聞を作る。 ・ダムの4つの役割をまとめたい。 ・もし自分が川上村に住んでいたらダムに賛成できるかな。 ・ダムのおかげでわたしたちは安全に生活できているんだ。	・大滝ダムを見学して感じたこと、大滝ダムの役割、水のつながり、防災のことなど、大滝ダム・学べる防災ステーションに関することを自由に新聞にまとめさせる。中流の自分たちだからこそ書ける内容を書いている子どもを褒め、価値づける。	イ④
9 2 時 間	【総】自分にできることを考える。 ・わたしも紀の川のつながりの中の1人だ。 ・水を大切に使ってきれいに下流へ流したい。 ・「ありがとう」の気持ちで水や木を使いたい。 ・これからもきれいな紀の川と海であってほしいから、絶対にごみを捨てない。	・今もこれからも川上村がきれいな水を生み続けてくれていることや、自分はその紀の川の水を使う一員であることを再度自覚させ、自分にできることを考えさせる。	ウ⑦

6. 成果と課題（本学習で育てたいE S Dの資質・能力を中心に）

○クリティカルシンキング（批判的に考える力）

「自分たちの生活に対して、このままでいいのか、という視点で課題を見つけ、考える。」

ごみの学習をした後の「嫌いな給食でもあと一口食べよう。」地域のごみ拾いをした後の「学校みんなにも伝えたい。」「放課後に集まってごみ拾いしよう。」水の学習をした後の「シャワーの水を出しっぱなしにしないようにしよう。」「蜷川」の学習をした後の「わたしは家や思い出をはずめたくない。」防災の学習をした後の「避難訓練を真剣にしたい。」「弟のためにおむつや着替えを防災バッグに入れたい。」大滝ダム・学べる防災ステーションで豪雨体験した後の「この雨が何時間も降ると考えたら恐ろしい。」森と水の源流館を見学した後の『「ありがとう」の気持ちで水や木を使いたい。』など、学習を自分事としてとらえ、自分にできることを考える児童が多くいた。普段の学校生活でも、水が出しっぱなしになっていたら、「もったいない」と言いながらすぐに止めたり、「西部小フェスティバル」という、クラスでクイズやゲームのお店を出して全校で楽しむ行事では、「できるだけごみを少なくしよう。」と声をかけて、新しい紙やガムテープの使用を控えたり、使った後のペットボトルを「家で分別するから持って帰る。」と言ったりするなど、この学習が終わった後でも、自分たちの生活を見直し、行動しようとする児童もいた。しかし、そうした行動が全員には浸透していないのが課題である。

○システムズシンキング（総合的・多角的に考える力）

「上流・中流・下流それぞれの立場に立って考えることが必要であることを学ぶ。」

上流から流してもらった水を使い、下流に流す中流という立場で紀の川のつながりを学ばせることを意識した。

森林を守り、木材を生み出し、きれいな水を流す上流。水産物を育て、獲り、水が蒸発することによって雨を降らせる海へつながる下流。児童は、この2つの役割は比較的容易に理解できた。

しかし、上流からきれいな水を流してもらいながら、下流へ汚れた水を流すことになる中流の役割を理解させるのは難しかった。上流は林業、下流は水産業、そして中流は農業と、それぞれに大切な役割があることを伝えることによって、中流で作った米や野菜、果物が、上流や下流で暮らす人の食生活を支えていることや、水田が緑のダムのように水を貯え、下流の洪水を防いでいることにつながっていること、また多様な生き物の住処になっていることにも気づくなど、中流の立場でも考えさせることができた。

今回、遠足で上流へ行き、見て、聞いて、感じることで、上流の役割は身に染みて理解できたように思う。一方、下流の役割については、十分に考えることが弱かったように思う。時間等の制約はあるが、下流の小学校とつながったり、実際に海でゴミ拾いをしたりしてみる、漁師の話を聞く、「紀の川じるし」の学習をどこかで取り入れる、などの学習をすることで、より理解が深まったのではないかと思われる。

○つながりを尊重する態度

「上流・中流・下流のそれぞれのつながりや、様々な施設、地域の関係機関とのつながりが自分たちの生活を支えていることに気づき、大切にしようとする。」

以下は、学習の中での児童の考えや振り返りである。

「エコライフ紀北の人は、『自分たちの町は自分たちできれいにしたいからこの仕事を選んだ。』と言っていた。」「川上村の人が森を守ってくれているから水はおいしいんだ。」「毎日水をきれいにしてくれている人がいるからいつも水が使えるんだ。」「わたしたちが使った水をきれいにして下流に流してくれてありがとう。」「和歌山県も橋本市も（災害）対策をしてくれている。わたしも対策をしたい。」「ダムが完成するまで50年もかかったなんて、きっと反対する人が多かったんだろうな。」「ダムのおかげでわたしたちは安全に生活できている。」「海でとれた魚を上流・中流の人が食べている。」「中流で作った米や果物を上流・下流の人も食べている。」「上流・中流・下流がつながっているからわたしたちは生活できているんだ。」

学習のまとめでは、「わたしも紀の川の中流の中の人だ。」という意見もあった。

学習を通して、児童は、自分たちの生活を支えている人の存在に気づき、その思いに気づき、そのつながりにも気づくことができたと考えられる。

しかし、「自分の生活が川を汚すこと」と、「紀の川の中流や下流の水がきたなくてそのままでは飲めないこと」が、児童の意識の中でつながっているかは曖昧で、このつながりを児童があまり実感できなかったことは課題である。

○その他

「児童の意識や思考を大切にしたい単元構成」

今回、毎時間ごとに児童の考えや振り返りを記録し続けた。結果として、児童の意識や思考が把握でき、スムーズに学習を進めることができた。また、学習につながりが生まれたため、主体的かつ深い学びになった。

一方、児童の思考を大切にあまり、次の学習を当初予定していたものと急遽変更することになったり、記録に長い時間がかかったりと、負担が大きく増える結果になってしまった。



現在の学年終了時に目指す姿

身近な環境問題と紀の川を通したつながりについて理解し、自分たちの生活を支えてくれている人や自然の働きに気づき、感謝の気持ちをもって自分にできることをしていこうとする。

総合的な学習の時間「環境問題って何だろう」

環境問題について知っていることを発表させ、初めにごみの学習について調べたいという意欲を持たせる。

地球温暖化、マイクロプラスチック、ポイ捨て…。まずごみのことを調べたいな。

・ダムのおかげでわたしたちは安全に生活できているんだ。
・「ありがとう」の気持ちで水や木を使いたい。
・わたしも紀の川につながりの中の1人だ。

総合的な学習の時間「自分にできること・ダム新聞」

今もこれからも川上村がきれいな水を生み続けてくれていることや、自分はその紀の川の水を使う一員であることを再度自覚させ、自分にできることを考えさせる。

社会科「ごみの処理について」

理科の観察中に割ってしまった温度計の行方を考えさせ、橋本市のごみの量やごみの行方を調べさせる。自分の生活を振り返るとともに、地域にも目を向けさせる。

・埋め立て場がいっぱいになったらどうなるのだろう。
・まだ使えるものは大切にしたい。
・嫌いな給食でもあと一口食べよう。

自分たちの町は自分たちできれいにしたい。

・こんなにごみがあるなんて。
・放課後に集まってごみ拾いしよう。
・学校のみんなにも伝えたい。

春の遠足(エコライフ紀北)
エコライフ紀北の工夫、働く人の思いや願いに気づかせる。

総合的な学習の時間「地域のごみ拾い・ごみ新聞」

ごみを拾うことの大変さと、自分たちの町をきれいにするには、ごみを捨てる人をなくさなければならないことに気づかせ、どのように行動するのかを考えさせる。

社会科「くらしをささえる水」

水道水と川上村の源流の水を飲み比べ、「おいしい水」に対する問いをたくさん出させる。水をきれいにする仕組みと、24時間365日水をきれいにし続けてくれている人の存在に気づかせる。水を大切に使うためにできることと、水を汚さないためにできることを考えさせる。

・なぜ川上村の水はこんなにおいしいのだろう。
・川上村の人が森を守ってくれているから水はおいしいんだ。
・毎日水をきれいにしてくれている人がいるんだ。
・シャワーの水を出しっぱなしにしないようにしよう。

道徳「蜷川」(自作教材)

ダムを造ることに賛成か反対かを考えることを通して、環境問題や上流の人の葛藤、ダムには犠牲が伴うことに気づかせる。

・下流の人のためにダムを造るべきだ。
・ダムを造ると自然破壊になってしまうよ。
・家や思い出を失いたくないからダムには反対だ。

総合的な学習の時間「身近な環境を考えよう」

○主に養いたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング (批判的に考える力)

自分たちの生活に対して、このままでいいのか、という視点で課題を見つけ、考える。

システムズシンキング (総合的・多角的に考える力)

上流・中流・下流それぞれの立場に立って考えることが必要であることを学ぶ。

つながりを尊重する態度

上流・中流・下流それぞれのつながりや、様々な施設、地域の関係機関とのつながりが自分たちの生活を支えていることに気づき、大切にしようとする。

○主に育てたい ESD の価値観

世代間の公正

自分たちの世代だけでなく、紀の川のめぐみ、自然環境を未来へつないでいこうと考え、行動する。

自然環境、生態系の保全を重視する

自分たちの生活が自然環境に与える影響を理解するとともに、自然環境を守ることが自分たちの生活を守ることにもつながっていることを理解し、考え、行動する。

秋の遠足(川上村)

○森と水の源流館…紀の川を通した上流・中流・下流のめぐみのつながりを確認する。自分にできることを考えてほしいという課題を出してもらう。

○音無川・蜻蛉の滝…きれいな水に触れ、この水が紀の川につながり、自分たちが使っていることを感じさせる。

○大滝ダム・学べる防災ステーション…豪雨体験で自然災害の恐ろしさを体感する。大滝ダムの役割と犠牲について学び、考えたことをダム新聞にまとめてほしいという課題を出してもらう。

・本当に森林がたくさんだ。
・上流・中流・下流がつながっているからわたしたちは生活できているんだな。
・このきれいな水をわたしたちはいつも使っているんだな。
・この雨が何時間も降ると考えたら恐ろしいな。
・自分にできることとダム新聞を考えよう。

総合的な学習の時間「環境とつながる自然災害」

昨年度の大雨、伊勢湾台風を切り口に、大滝ダムや森林の働きを調べさせる。紀の川を通したつながりを考えさせ、川上村への遠足の意欲を高めさせる。

・ダムが完成するまで50年もかかったなんて、きっと反対する人が多かったんだろうな。
・森林があるから水がきれいになって、洪水も防いでくれている。
・海でとれた魚を上流・中流の人が食べている。
・中流で作った米や果物を上流・下流の人も食べている。

社会科「自然災害から命を守る」

南海トラフ地震をテーマに、和歌山県・橋本市の災害対策を調べさせる。自分の命、家族の命を守るためにできることを考えさせる。

・避難訓練を真剣にしたい。
・防災倉庫には食料が入っていない。
・家で防災バッグの中身をもう一度話し合おう。
・弟のためにおむつや着替えも用意しなければ。